

現代倫理道德研究会（平成 31 年 3 月 6 日）発表要旨

天皇の「徳」について—「徳」をどう「読む」か、先行研究の整理—

廣池千九郎研究室

客員研究員 久禮旦雄

共同研究において重要なこととして、そこで用いられる用語の意味を確定し、それぞれの分野において持つ意味の違いや距離感について、認識する必要がある。

そのため、本年度の共通テーマである「徳」について、日本ではどのように理解されていたのか。本報告ではそのような問題意識のもと、『日本書紀』にみえる天皇の「徳」の理解をめぐる先行研究を検討した。

まず、丸山真男が『日本書紀』の雄略天皇について「有徳天皇」と「大悪天皇」という評価が両立していることに注目し、古訓において「徳」が「イキオヒ」と読まれていることから、日本社会においては「徳」は中国における道徳的な意味はなく、呪術的・宗教的・肉体的な力として理解されていることを紹介した。それに対して、成沢光が、中国においても「徳」はかつては呪術的な意味をもっており、これは日本と中国の文化的な違いではなく、歴史的な理解・受容の過程の違いであると反論したこと、更に丸山がそれに再反論した経緯など、議論の過程をたどり、「徳」の日本社会での理解の論点について整理した。